

## B. 食品ロスの現状と解決に向けた取り組み

消費者問題講義受講生グループ B  
対馬 陸・中島舞子・中村佳苗  
蓮本玲吾・宮村彩花・小栗山由輝菜

### 1. SDGs と食品ロス問題

2015年9月、全国連加盟国は、より将来を実現するために、今後15年かけて極度の貧困、不平等、不正義をなくし、地球を守るための計画として「持続的な開発目標」(SDGs)を掲げた。この目標の達成や消費者市民社会の形成のための社会的課題の一つとして、食品ロスの解決が挙げられる。食品ロスの現状と解決に向けた取り組みについて述べよう。食品ロスとは、まだ食べられる食品を廃棄することである。世界で廃棄されている食料は年間約13億トンであり、これは全世界の生産量の約3分の1の量である。その中で、日本の食品ロスの量は年間約632万トンにも上る。

### 2. 食品ロスが発生する原因

食品ロスが発生する原因にはさまざまなものがあるが、大学生に身近な例を4つ述べよう。

第1に、無計画な購入である。食品が低価格のときや、買い置きのために必要以上に購入し、期限が切れる前に食べないと判断し、廃棄するというものだ。さらに、1人暮らしの大学生は1人分の食事を用意することが難しく、食品を余しやすいだろう。

第2に、食品の期限を切らして廃棄することである。具体的な例として、期限の種類に対する理解度が消費者の中で確立していないことが挙げられる。消費期限は安全に食べることができる期限であり、賞味期限は鮮度や味が良い状態である期限を示している。双方の意味を正しく理解していない消費者が存在することで、まだ食べられるのに賞味期限が過ぎたことで廃棄される食品が生まれてしまうのだ。

第3に、飲食店による廃棄である。これは店側と客側、双方に原因がある。ファストフード店などでは客からオーダーが来たらいち早く提供できるように、作り置きをする場合がある。その商品のオーダーが来なければ、閉店後に廃棄するという例がある。さらに、鮮度が悪い食品は提供することができないため廃棄する。これらは店側が原因で起こる食品ロスである。それに対して、客側の原因によるものは、食べ残しや、団体での予約を直前にキャンセルするという例が挙げられる。

第4に、SNSが原因となる例である。写真や動画を投稿する、SNSのインスタグラムが若者を中心に流行している。インスタグラムに写真を投稿し、見栄映えが良いようにすることをインスタ映えという。そのインスタ映えを狙って、写真を撮るためだけに商品を購入する消費者がいるのだ。例として、ソフトクリームを購入し、長時間に渡って、さま

さまざまな角度から写真を撮り、ソフトクリームが溶けてきたため食べずに棄てるという例がある。

### 3. 食品ロスの改善に向けた取り組み

上記の原因を踏まえて、日本で取り組まれている活動を紹介しよう。第1に、飲食店での廃棄を減らすことを目的とした活動である。青森県で取り組んでいる「3010運動」は、飲食店での宴会や飲み会の際に、開始30分は席を立たずに食事し、会が終わる10分前にそれぞれの席につき料理を食べ切るといったものだ。この活動により、飲食店での客の食べ残しによって生まれる食品ロスの改善につながる。その他に、廃棄される前に食品を有効活用する取り組みがある。青森県弘前市土手町のファーマーズキッチンが取り組んでいる「子ども食堂」は、家で1人で食事をするような子どもたちに、無償で食事を提供している。料理の材料は、農家で出た味は問題ないが形が悪くて廃棄されるような食材を集めたものである。これによって、普段廃棄されている食品が、より安いものとなって必要な人に提供されるのだ。さらに、東京都多摩市では「無料スーパー」という、企業や家庭で不要になった食品の寄付を受け、必要な人に無償で提供するという活動を行っている。これは、NPO法人シェア・マインドが始めた試みである。「無料スーパー」で食品を受け取ることができる消費者は、貧困家庭に限らず、誰でも良いため、気軽に来店できる点が来店客から良い評価を受けている。

### 4. 私たちにできること

以上を踏まえて、消費者である自分たちに何ができるだろうか。まず、個人でできることについて述べよう。最も気軽かつ有効な手段は、計画的に購入し消費することだろう。料理の献立から購入、消費までの一連の流れを明確に計画し、実行することで食品の廃棄を減らすことができるだろう。さらに、食品ロス改善に向けた活動に、ボランティアとして積極的に参加するということが挙げられる。実際に、弘前市土手町で開かれている「子ども食堂」に、弘前大学のボランティアサークルに所属する大学生が調理スタッフの補助として手伝いに行っている。調理スタッフが今以上に増えれば、多くの食事を用意することができ、その分、農家からの食品の寄付を多く受けることができる。よって、食品ロスの改善に効果的であると考えられる。消費者1人1人が意識して行動し、それらが積み重なることで大きな力になるが、もっと有効に取り組むには、東京都多摩市のようにNPO法人などの力が必要である。よって、東京都だけでなく、青森県、さらには全国各地で「無料スーパー」を開催するべきである。自分にとっては不要な食品でも、誰かにとっては必要な食品であるということが消費者全体に認識されれば、「食品スーパー」はどの地域でも好評の活動になるだろう。

(中島舞子)

## 食品ロスの現状と 解決に向けた取り組み

15H2079 小栗山由輝菜 16H2096 対馬陸 16H2104 中島舞子  
16H2106 中村佳苗 16H2115 運本玲吾 16H2139 宮村彩花

### ①子ども食堂

- ▶廃棄する食材を使った料理を子ども達に無償で提供
- ▶@弘前市土手町「ファーマーズキッチン」
- ▶スタッフ不足が問題

### 食品ロスとは...

- ▶まだ食べられる食品を廃棄すること
- ▶日本の廃棄量は年間約**632万トン**！

### ②無料スーパー ※

- ▶家庭や企業で不要になった食料品の寄付を受け、必要な人に無償で提供
- ▶@東京都多摩市
- ▶弘前市では浸透していない

※“「無料スーパー」寄付された食品を提供 月1回で開始”，朝日新聞デジタル。  
<https://www.asahi.com/articles/ASK967367K96UTIL048.html>，（参照2018-1-25）

### 食品ロスの例

- ▶無計画な食品購入
- ▶消費期限と賞味期限の違い
- ▶飲食店での廃棄
- ▶インスタ映え

### 私たちにできること

- ▶活動への積極的参加  
子ども食堂の調理スタッフの協力
- ▶弘大無料スーパーの開催！

## 食品ロスが改善されれば…



これらの目標の達成につながる！

